

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策		《-》数値指標なし			評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
				指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)		2018年度 (平成30年度)
農業の未来を託せる 人づくり	1 未来につなぐ多 様な担い手づくり	施策 担い手の育成・ 1 確保	①認定農業者の維持（育 成）並びに確保	認定農業者数	126	126	119	《△》 離農等で認定農業者から外れた農業者が居たものの、新規で農業 経営改善計画を認定され、地域の担い手である認定農業者となっ た者もあった。
			②新規就農者の確保	認定新規就農者 数	4	21	8	《○》 JA伊勢や三重県などとともに農業研修を実施した。農業・農村 に対する理解を深めるため、地元農業者や教育関係者など一体 となり、将来の担い手となり得る子供たちに対し農業体験を実施 した。新規就農者の確保をすべく、就農しやすい環境づくりを推 進した。
			③新規就農者育成の取り 組みを支援	—	—	—	—	《○》 関係機関等で行う農業研修の支援を行った。
			④多様な農業の担い手を 支援	—	—	—	—	《△》特色ある農産物づくり支援事業補助金の活用には至らな かったが、JA伊勢や生産者部会等と連携して、特色ある農産物づ くりに関する情報の収集や課題の検討を行った。
		施策 農業の共同化、 2 法人化の推進	①集落の営農の組織化を 推進	集落営農組織 化、農業経営法 人化件数	5	10	8	《○》 1地区において、集落営農の組織化を達成できた。
			②農業経営の法人化を推 進					《△》 集落営農の組織化に併せて、その後の取組みとして法人化を目指 していくことについて推進した。
自慢できる農作物づ くり	2 地域の特性に応 じた農業生産システ ムづくり	施策 経営安定対策の 3 充実	①水田農業経営の安定	—	—	—	《○》国の米政策において、平成30年産より、国・県からの主食 用米の生産数量目標の配分は無くなった。しかし、主食用米の過 剰生産は米価の下落により農業経営の悪化を引き起こすおそれ があるため、国の制度「経営所得安定対策」において転作の奨励を 行った結果、国・県から示された主食用米の生産量の目安61.0% (転作率39.0%)は達成となった。	
			②所得安定に向けた助成 制度の活用	—	—	—	—	《○》水田フル活用ビジョンの2020年度の作付目標及び単収目標 が達成できるように小麦の作付けに対して支援を行った。

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	《-》数値指標なし				評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)
			指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	
自慢できる農作物づくり	2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり	施策3 経営安定対策の充実	③金融制度を活用した経営改善の支援	—	—	—	《○》 担い手の機械・施設等の導入や更新の際に利用した農業近代化資金、農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、農業者の負担軽減を図った。
		施策4 農産物の産地化	①営農指導対策への支援	—	—	—	《○》 水稻の共同防除の際に、事前の周知をJAと合同で行うことができた。また、JA伊勢、三重県の農業普及員が中心となり、農業の適正使用の普及・啓発を行った。
			②野菜産地の維持・育成	—	—	—	《○》 新規就農者に対する支援を実施するとともに新しい機械や資材の導入等を支援し、栽培・出荷体制の強化を図った。
			③花き産地の維持・育成	—	—	—	《○》 JA伊勢が年2回行う花き品評会の支援など生産組織の育成を図った。 また、国の補助事業を活用し、花き生産者の環境整備に対して支援を行った。
			④果樹産地の維持・育成	—	—	—	《○》 蓮台寺柿の穂木育成の支援を行い、栽培面積の確保を図った。また講習会（座学、実習）を開催し、栽培技術の向上を図った。
			⑤生産性の高い畜産の振興	—	—	—	《△》 JA伊勢や三重県と協力し、飼料用米の栽培推進やWCS用稲の導入によりJA伊勢管内の飼料自給率の向上を図り、畜産経営の合理化に向け取り組んだ。 また、飼料用米の栽培により飼料の確保を図ったが、市内の畜産農家との連携には至らなかった。
		施策5 生産・出荷体制の充実	①生産・出荷施設の充実を支援	—	—	—	《△》 平成30年度においては、JA伊勢の共同出荷施設等の更新計画が無かったため、未実施となったが、JA伊勢と連携を密に取り、適切な時期に共同出荷施設等の更新の検討を進めている。
			②多様な販路の拡大を支援	—	—	—	《△》 11月に三重テラスにて物産展を行ったが、SNS等を活用しての市内農産物の情報発信までには至らなかった。

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策		《-》数値指標なし			評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
				指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)		2018年度 (平成30年度)
自慢できる農作物づくり	3 地域農業を支える生産基盤づくり	施策6 農業生産基盤の整備促進	①立地状況に応じた生産基盤の整備を推進	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、順調に整備を推進している。	
			②農業水利施設の整備と農業用水の確保を支援	—	—	—	《△》 国営宮川用水第二期事業関連県営事業については、幹線施工や測量設計等の実施のため施工延長としては微増であったが、予算に基づき計画的執行を行い、事業の推進を図った。	
		施策7 優良農地の確保と担い手等への効率的利用促進	①遊休農地の把握と防止・解消対策	遊休農地の割合	3.19%	3.02%	3.03%	《○》 農業委員会等関係機関と連携し、遊休農地の把握に努めた。また、遊休農地の解消に取り組もうとする農業者へ支援を行い、遊休農地面積は対前年度比で0.08%の減少となった。
			②優良農地の確保を推進	伊勢市農業振興地域整備計画における農用地面積	2,246ha	2,231ha	2,246ha	《△》 農地の集団性を確保し優良農地の保全に努め、農用地区域の面積は対前年度比で約1haの減となった。
			③人・農地プランの作成と農地中間管理事業の活用を推進	人・農地プランの作成数	3地域	20地域	12地域	《○》 小俣町で8集落、中須町で新たに人・農地プランが作成された。
		施策8 鳥獣被害対策の推進	①有害鳥獣による農産物被害の減少	有害鳥獣の被害額	15,785千円	7,210千円以下	17,566千円	《△》 伊勢市鳥獣被害防止計画に基づき、農地等に出没する有害鳥獣の捕獲を行い、被害のある地域に対し、防護柵等の資材支援を行った。また、地域が主体となって被害防止策を講じるために必要な研修会を開催し、獣害に強い集落作りに向けての体制整備に取り組んだ。
	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	施策9 安全・安心な食料の供給体制の構築	①食の安全・安心体制の構築への取り組み	—	—	—	《△》WCSや、わら利用の取り組みについて、産地交付金にて支援を行った。また、JA伊勢及び各部会の取り組み支援についても各種補助金にて支援できた。しかし、GAPについては推進を図れなかった。	

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	《-》数値指標なし			2018年度 (平成30年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)		
			指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)				
自慢できる農作物づくり	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	施策10 地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み	①ブランド化の方向性を定め、それに向けた取り組みを支援	市内産農産物のブランド化に向けた取り組みへの支援数	9件	59件	15件	《△》平成30年度においては、1品目しか農産物ブランド化推進補助金の活用がなかった。しかし、JA伊勢や生産者部会等に対して、課題や方向性の検討を行い、情報の共有を行った。	
			②内外に向けて有効な方法での情報発信	—	—	—	—	《○》三重テラスでの物産展、SAKEセレクションへの蓮台寺柿の出展等を行うことができた。	
			③6次産業化など農産物の加工品開発を推進	—	—	—	—	《○》JA伊勢が食品ロスとなるねぎを活用して開発した「ねぎらいねぎオイル」への支援を行った。	
	施策11 地産地消の推進	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	①地産地消をさらに推進	学校給食への地場農産物の提供回数	2回	6回	8回 (12回)	《○》市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。 内訳： ※単独自校方式と共同調理場方式により献立が違うため、提供回数が異なる。 単独：いちご1回、柿1回、ねぎ6回 共同：いちご1回、柿1回、ねぎ10回	
				②農産物の直売活動の充実	民話の駅蘇民・郷の恵「風輪」・サンファームおばたの来客者数	257,000人	295,000人	206,585人	《×》台風による災害や長期の天候不順により農産物等の出荷が少なく、利用者（レジ通過者）は減少してしまったが、各産直施設でイベントを開催し生産者と消費者が交流できる機会を設け施設の有効活用を図った。
				③市内産農産物の地元への流通を促進	—	—	—	—	《○》地元の農業者が市内農産物直売施設に農産物を出荷できるよう、関係機関と連携して推進を図った。
	施策12 食育の推進	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	①農業体験や市内産農産物の学校給食への使用による食育の推進	農業体験学習実施校数	11校	18校	15校	《△》農業体験の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について、市民の理解が深まるよう取組を行った。なお、天候不良により実施中止があり、実施校数の減となった。	

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策		《-》数値指標なし			評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
				指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)		2018年度 (平成30年度)
自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり	5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり	施策13 地域資源と農村コミュニティの適切な保全	①地域資源を活かした多彩な交流の場を提供	—	—	—	《○》 施設の維持補修を行い交流・ふれあいの場を提供をしている。	
			②祭り・伝統行事等継承への取り組みを支援	—	—	—	《△》 農業に由来する祭り・行事等の継承活動に対して支援を行うことができなかったが、小学生が行うわら細工づくりに対して、わらの提供等について支援を行った。	
		施策14 多面的機能支払交付活動	①共同活動への支援	多面的機能支払交付金活動組織化数	26	30	28	《△》 28組織に対して共同活動への支援を行った。
			施策15 都市住民と連携・交流の促進	①都市住民と連携・交流の促進	—	—	—	《○》 JA伊勢と連携し、市民農園の利用者の募集および啓発の促進を図った。 また、農業体験を通じて、生産者と消費者の連携・交流の場づくりを行った。
		②観光施策との連携を推進		—	—	—	《△》 平成30年度全国高等学校総合体育大会の開催に伴い、農業・林業・水産業にまつわる伊勢産品の詰合せボックスを作成し、地元を会場として行われた競技の入賞選手約650人に、副賞として贈呈することで、他分野の施策と連携し、伊勢市の農林水産業の情報発信を行った。	
		施策16 農村空間の総合的な整備促進	①農道・集落道路の維持・保全	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、順調に整備を推進している。
			②排水施設の維持・保全	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、順調に整備を推進している。
			③農村の保全・防災対策を推進	—	—	—	—	《△》 排水機場の保全計画を策定した。合わせて適正化事業を順調に推進している。また農業用ため池である東池の堤体改修工事が県営事業にて着手された。

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	《-》数値指標なし			2018年度 (平成30年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
			指標	2017年度 (2016年度 実績値)	2027年度 (目標値)			
自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり	5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり	施策 17 森林の保全と育成	①森林機能の増進などを支援	森林の間伐率	26.90%	28.00%	29.76%	《○》 目標値を達成した。
			②暮らしを守る森林づくりを推進	—	—	—	—	《○》 防風保安林である松林の保全を計画的に行った。
			③市民との共生の森林づくりを推進	—	—	—	—	《△》 交流施設として整備した横輪町「郷の恵風輪」を核とした宮山を活かし、桜まつり、ホタル鑑賞会など地元活動による自然鑑賞会が行われている。
			④里地里山の保全・活用を支援	—	—	—	—	《○》 地元組織による里地を活用した活動への支援を行った。